

繋がる 創る わかり合える 診療放射線技師の未来



上田克彦

(うえだ かつひこ)

九州大学 医療技術短期大学部に進んだことで診療放射線技師となる

山口大学 医学部附属病院に長く勤務

京都大学 医学部附属病院に異動後60歳で定年退職

国際医療福祉大学 成田保健医療学部で教員として再スタート

公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長に就任

医療推進協議会代表を務めたことで、中央社会保険医療協議会専門委員にも就任

趣味

今、趣味は仕事としか言えませんが、慌ただしい毎日の中、「あみよん」さんの音楽に癒やされています。

100人カイギでの登壇内容の要約

100人カイギにお声がけいただき感謝申し上げます。100人カイギでは35年間勤務した山口大学時代のスローガンにもなった「地方から世界に」として27歳でシカゴ大学に短期留学させていただいたきっかけとその後、日本放射線技術学会役員として国際シンポジウムの開催、国際交流について、そして今や座右の銘としている「百八方美人」を活かした日本診療放射線技師会（以下技師会）会長としての関係団体との協調を目指したことを紹介しました。

100人カイギのオファーを受けた理由 と参加して変わった事

私が演者としてお誘いいただいたのは、技師会会長としての新しい取り組みに注目頂いたからだろうと考えていますので、より技師会の活動を知っていただくためにはなるだろうと思ひ引き受けました。

100人カイギを通して比較的若い世代の方を知ることができました。ある程度年齢を重ね、役職もつくとなかなか若い方のお話をじっくり聴く機会も少なくなるものですが、同じ回に登壇された方のお話を聴くだけでも新鮮でしたし、様々な生き方や自分と似ているなど思う生き方もお聴きすることで、久しぶりにフレッシュな感覚を取り戻すことができました。

診療放射線技師の道を選ぶ中で思った事

100人カイギではリハーサルにおいて、診療放射線技師の道を選ぶことへの迷いや、導いていただいた話も盛り込みましたが、時間の都合で本番では省くことになりました。私は高校卒業時にはパイロットになろうと漠然と考えて自衛隊や航空大学を受験しました。結局浪人してからは、航空工学を目指してみたものの、受験に失敗し防衛大学と九州大学医療技術短期大学部(九大医短)だけに合格しました。受験シーズン後に体調を崩したことや母親の勧めで嫌々ながら受験した九大医短に進学することになったのですが、入学後も万全の体調とはいかずすぐに辞めようかなと思っていました。ところが同級生には現役入学は4名しかおらず、半分くらいは一浪、その他、大学卒業したり中退したりとすんなり入学した同級生は少少で、しかも皆、失敗は許されない感じで勉強していたような印象で、自分の目標のなさや甘い考えをひとまず捨てて九大医短の学生生活を送りました。その後、縁あって山口大学に就職したのですが、まだまだ心底から診療放射線技師で一生過ごしていけるのかなとも感じながら毎日を過ごしていました。そんな中、当時の上司であった大塚昭義さんからは「われわれが10年かかってやってきたことは3年くらいでできるようになってもらわないと進歩はない」というような事を言われ、厳しい指導もありましたが、「いつ辞めてもいいや」と思いながら先輩からのお誘いには「はい」